

事 務 事 業 評 価

平成 25 年度

		担当課	しまばらブランド営業課								
基本事項	事務事業名	島原市特産品創出事業				整理番号	1403				
	根拠法令等	島原市特産品創出事業実施要綱			実施を義務付ける規定	○あり ●なし					
	関連する市勢振興計画の基本計画	章	第6章 地域の個性と魅力を磨いて交流を促進する	予算科目	7:款 1:項 4:目	●継続 ○新規					
		節	第1節 地域ブランドの確立	事業区分	市民サービス事業						
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	本市には優れた農水産品はあるものの、ブランド品として価値向上推進の動きが鈍く、土産品などこれまでの定番商品についても新たな動きはあまり見られず、これまでの本市特産品の特長として、伝統的なものや土産品として利用されている商品が多かったため、消費者の購買意欲を掻き立てる商品が欠如していると考えられた。多くの観光資源を有する本市にとって、特産品の質の向上は急務であると考えられたため、地域経済の活性化を図ることを目的として、島原の顔となる特産品の創出を推進するために本制度を創設し、事業を開始するに至った。					計画期間	始期	平成	20 年から	
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	下記により地域経済の活性化を図ることを目的とする。 ・特産品の創出 ・受賞商品の販路拡大 ・商品の質の向上 ・地域資源の活用					終期	平成	年まで		
	目的達成のための 具体的手段・方法	・新商品、改良品のコンテストの実施 ・アドバイザーの派遣や販路拡大についての支援 ・受賞商品のPR ・受賞商品の売り込み									
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 (内 容)		単位	23 年度	24 年度	25 年度				
		①受賞商品数 ◇最優秀賞該当商品 最優秀賞の該当商品の品数 … 1点 ◇優秀賞受賞該当商品 優秀賞の該当商品の品数 … 4点		目標	点	5	5	3			
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	②受賞商品の流通数 受賞商品の販路開拓数 ・最優秀賞品が大手百貨店への流通商談成立		目標	点	5	5	3				
	①アドバイザー派遣 アドバイザーの派遣回数		実績	点	6	5					
		達成率	%	120.0	100.0	0.0					
		目標	点	5	5	3					
		実績	点		1						
		達成率	%	0.0	20.0	0.0					
		目標	回	5	5	5					
		実績	回	0	1						
		目標	件	5	5	2					
		実績	件	1	0						
事業費等の推移	年度		21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度			
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画			
	① 直接事業費(千円)		306	359	714	986	1,420				
	財源内訳	国 県 支 出 金									
		地 方 債									
		そ の 他									
		一 般 財 源	306	359	714	986	1,420		0		
	② 従事職員給与費 b1×b2		0	0	0	0	8,656		0		
従事職員数(人) b1		0.00	0.00	0.00	0.00	1.20		0.00			
職員平均人件費 b2		7,162	7,168	7,236	7,277	7,213					
事業費合計 ① + ②		306	359	714	986	10,076		0			

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている 地域間競争の激化、客ニーズの多様化を背景に、市の関与の必要性はむしろ強まる。	判定 B
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 他自治体においては、同種事業が経済団体等により実施されている例がある。	C
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適應しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 広く公募し、実施している。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 受賞商品の販路拡大や造成に繋がっている	B
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 市によるフォローアップを充実させることで、より事業成果を上げることができる。	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させること A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 販路開拓に向け他の事業と連動し実施することで展開が図れる。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 事業の一部において「島原ご当地グルメGP」との統合が考えられる。	B
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 組織内で適宜連携を図り、PR、販路拡大等を図っている。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 広く公募し、実施している。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要			A
判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			2.40

◎ 総合自己評価（所管部署）	
評価結果 <input type="radio"/> A 継続実施（特段の見直しは行わない） <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input checked="" type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止（隔年実施などへの変更） <input type="radio"/> D 廃止（終期の設定等を含む）	判断理由 事業実施後、初めての最優秀賞品が選出され、商品の販売促進等は実施できたが、生産量の拡大が課題となった。 今後は安定した加工生産ができるよう事業者と連携し、整備を図って行きたい。
今後の課題及び改善策、見直しの状況	（実施上の課題等） ・受賞商品については、大手百貨店バイヤーによる指導・提案により、商品流通ができた。

【2次評価】

総合判定	B3見直しのうえで実施 ⇒ 事業内容の改善
備考	賞の選出もさることながら、最も重要なことは選出された商品が島原の特産品として流通出来るかということである。今後は、受賞作品の販路拡大に向けた具体的方策を検討すべき。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input checked="" type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	△54 (千円)